

## 第26回B to B広告テクノコピー賞

金賞

# 浄水場の名前が、ブランドになる日。

「違う街に引っ越したら、水道水がまずくて閉口した」といった話を聞くことがよくあります。これは、消毒用の塩素によるカルキ臭や、有機化合物の残留によるカビ臭が主な原因。最近では、自分の家がどの浄水場から給水されているか、気にする人も増えているようです。

都市部の多くの浄水場では、より飲みやすい水道水を供給するための「オゾン」を使った高度浄水処理の導入が進んでいます。オゾンの持つ強力な酸化作用で、除菌だけにとどまらず、カビ臭の原因となる有機化合物も分解する仕組みです。塩素処理のようにトリハロメタン発生の心配もなく、残ったオゾンも分解して酸素になるので安心です。

水道水のおいしさを意識して住む街を選ぶ人は、これから増えていくことでしょう。三菱電機は、多くの浄水場でも採用されているオゾン発生装置「オゾナイザ」で、これからも「水道水の味で選ばれる街づくり」を応援します。